

研究室紹介号



MILK
知識情報・図書館学類誌

Extra
October,2018



MILK

知識情報・図書館学類誌

Extra

October , 2018

知識情報・図書館学類誌 MILK とは？

M ..... Management

I ..... Information

L ..... Library

K ..... Knowledge

2007 年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年 2 回 (7 月・12 月) お届けしています。
今回は特別号として研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENT

知識科学主専攻

歳森敦研究室……04
横山幹子研空室……05
照山絢子研究室……06
叶少瑜研究室……07

知識情報システム主専攻

佐藤哲司研究室……08
宇陀則彦・松村敦研究室……09-10
阪口哲男研空室……11
鈴木伸崇研究室……12
関洋平研究室……13
高久雅生研究室……14
手塚太郎研究室……15
時井真紀研究室……16
若林啓研究室……17
バールィシェフ・エドワルド研究室……18
森嶋厚行・渡辺知恵美・松原正樹研究室
(融合知能デザイン研究室)……19-20

情報資源経営主専攻

逸村裕研究室……21
平久江祐司研究室……22
吉田右子研究室……23
綿抜豊昭研究室……24
石井夏生利研究室……25-26
小泉公乃研究室……27
原淳之研究室……28

※執筆を承諾していただいた先生方のみの掲載となります。学生を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご確認ください。なお、本冊子に掲載されております情報は 2018 年 7 月時点のものです。

主専攻決定から卒業までの流れ(2018 年度)

主専攻決定までのスケジュール(2 年次)

日程	事項	MEMO
7 月頃	主専攻説明会	主専攻ごとの定員やスケジュールの予定が公表される
7~8 月頃	卒業研究の定員公開	所属したい研究室を意識しつつ，主専攻を考える
2 月 15 日	配属希望調査開始	manaba のアンケートで実施
3 月 15 日	配属希望調査〆	
4 月 1 日	配属結果公表	TWINS の掲示板を確認！

今年度配属予定の定員数
知識科学 46
知識情報システム 43
情報資源経営 43
※3 編生を含む

1 月初め

卒研最終発表会を見に行ってみよう！

研究室配属までのスケジュール(3 年次)

日程	事項	MEMO
7~8 月頃	卒業研究指導教員の募集人数公開	他主専攻・他学類の先生が募集をかけることもある
10 月 1 日	教員別の卒業研究指導方針が公表	学類 HP の「学生支援情報」に指導方針が公開される
10 月 15 日	個別面談スタート	面談の予約は 15 日以前でもできる．指導方針をチェック！
10 月 22 日	希望研究室の登録開始	
11 月 1 日正午	希望研究室の登録〆	
11 月～3 月	仮配属	4 月に「卒業研究」を履修することを忘れずに！

10 月中旬

卒研の中間発表やオープンラボに行こう！

卒業研究を履修するには……

3 年次 4 月時点で修得単位数が 45 単位以上（45 単位未満の場合，3 年次秋の指導教員も決められない）
4 年次 4 月時点で修得単位数が 90 単位以上（90 単位未満の場合指導教員が決定していても卒研を始められない）

他主専攻・他学類から学生を受け入れてくださる先生方(敬称略)

知識科学主専攻

教員名	職位	主専攻	定員
逸村 裕	教授	情報経営	0～2
小泉 公乃	助教	情報経営	0～2
佐藤 哲司	教授	システム	0～2
手塚 太郎	准教授	システム	0～2
森継 修一	教授	システム	0～2

知識情報システム主専攻

教員名	職位	主専攻	定員
于 海涛	助教	知識科学	0～2
上保 秀夫	准教授	知識科学	0～2
真栄城 哲也	准教授	知識科学	0～2
落合 陽一	准教授	創成学類	0～2
森嶋 厚行	教授	創成学類	0～2

情報資源経営主専攻

教員名	職位	主専攻	定員
宇陀 則彦	准教授	システム	0～2
阪口 哲男	准教授	システム	0～2
関 洋平	准教授	システム	0～2
高久 雅生	准教授	システム	0～2
ﾊﾞｰﾙｨｼｪﾌ ｴﾄﾞﾜﾙﾄﾞ	助教	システム	0～2
松村 敦	助教	システム	0～2
辻 慶太	准教授	知識科学	0～2
照山 絢子	助教	知識科学	0～2
松林 麻実子	講師	知識科学	0～2
叶 少瑜	助教	知識科学	0～2



研究室配属後のスケジュール(4 年次)

日程	事項	MEMO
4 月	研究室配属	「卒業研究」を履修することで正式な配属になる
6 月 13 日	着手発表	他主専攻の研究室でも，発表は自分の主専攻で行う
10 月 10 日	中間発表	
12 月 26 日	卒業論文提出日	紙と電子版(PDF を USB で持参)を学群教務に提出
1 月 9 日	卒業研究発表会	
2 月 27 日	卒業判定	
3 月 25 日	卒業式	卒業おめでとうございます！

2012 年度以前の入学者および春学期卒業については異なります.

歳森研究室

tosimori@slis.tsukuba.ac.jp



研究テーマ

現代に生きる我々は，人から聞く，テレビで見る，新聞で読む，ネットで調べる等，いくつもの方法で情報を得て，知識を獲得します。このような情報源の選択や情報の評価の際の人間の行動と意識を量的調査の実施とその計量的な分析から解明していきます。

過去の卒業論文のテーマ：

・若者の SNS 別写真投稿行動と投稿趣旨の比較
・位置情報ゲームが人間の行動に与える影響に関する研究
・闘病記ブログの執筆による闘病者の心の癒やし

◆学生研究室

7B140

机，研究室のパソコンとプリンタ，冷蔵庫，電子レンジ，ホワイトボードがあります。

◆ゼミ

週 1 回
2 時間程度

◆卒業後の進路

・東京電力
・Softbank
・野村不動産
・Accenture
・公務員

失敗しない「研究室の選び方」[1]で挙げられている項目にゼミ生が回答すると…

1. 自分と向き合う
－ 各自向き合ってください。「何をしたいか」くらいの問題だと思います。

2. 先生と自分との相性
－「来るもの拒まず去る者追わず」な先生だと思います。でも，面談はしたほうがいいと思います。面談といっても，気負わずに，ぼんやりと考えていることでも話してみてください。

3. コアタイム
－ ありません。好き時に来て，好きな時に帰っています。

4. 研究環境
－ 足りないと思うものは先生に相談すれば，用意してくれる，あるいは代替策を一緒に考えてくれます。

5. 研究業績
－ 卒論は，みんな苦労していますが，みんな卒業しています。

5. 良い先輩がいるか
－ 大学院生はいない（予定）です。

7. 学生同士の人間関係
－ 付かず離れずだと思います。

8.卒業生の進路
－なんとなく立派にそれぞれの進路に進んでいます。

1 http://www.wynned.com/entry/how-to-pick-lab

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

①主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。　たとえば、
　公案解釈に、ポール・グライスの会話の理論を使う。
　ウォルトンのごっこ遊び理論をつかって演劇論を考える。
②哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。　たとえば、「哲学の方法論として直観は使えるか」、「人間とコンピュータは違うのか」

現在のゼミの概要

現在のメンバー：4 年生 3 名　大学院生 1 名
研究室（7D543：後藤研と共有）
長期休暇の例外を除き、週 1 回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の 1 週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2 時間から 3 時間です。一人一人が 1 週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3 年生の内にテーマを絞り、4 年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

2018 年度ゼミ生（4 年生）の現時点での研究課題

「文字による伝達と発話による伝達の違い―言語行為論の視点から―」
「虚構作品間の引用・言及関係における同一性について」
「チャーマーズのハードプロブレム：クオリアの存在」

卒業後はどうするのか？

いろんな人がいます。大学院に進学した人、国立大学の図書館員になった人、私立大学の事務員になった人、故郷に帰って市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、故郷の金融機関に就職した人、某大手パン屋に就職した人、人材派遣会社に就職した人、本当にさまざまです。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に着けていただければと思っています。

興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

照山研究室

概要

現在の構成員：4 年生 5 名、M2　1 名

研究室：7D517（常駐可。ソファー、PC 等あります。）

形式：週 1 回 2 限連続でゼミをしています。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし（各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します）。

連絡先：teruyama@slis.tsukuba.ac.jp（照山絢子）

ゼミ生募集

基本的に、調査の方法として「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。

具体例

●特定の場やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する。

（例）図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど

●コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする。

●コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します！

受入人数：最大 5 名　知識科学主専攻 3 名 情報資源経営主専攻 0~2 名

◆今年の 4 年生の研究テーマ◆

「くも膜下出血を患った当事者及びその周辺人物のライフストーリーから見る『病』と『死生観』に対する見解の変化」

「日本における複数愛者の在り方と認識―複数愛者の視点から― 」

「子ども劇場の活動と課題：地域教育の在り方を展望する」

「部活動の文化と部員のモチベーション」

「共感覚者の意識と社会での在り方」

Q&A

卒業研究はどのように進めますか？先生に相談しながら進められますか？

⇒基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言を頂きながら進められます。

研究テーマはどのようなものがありますか？

⇒特定のコミュニティでのフィールドワークという点は共通していますが、内容は人によって様々です。多種多様な分野の研究や意見について学んだり議論したりできるためとても刺激的です。

飲み会やゼミ合宿はありますか？

⇒飲み会は年に 2〜3 回、慰労会のような形であります。合宿は現地で調査を行う研究旅行です。

どのような雰囲気の研究室ですか？

⇒和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生間で活発に意見交換が行われ色々な考え方に触れられます。

メディア心理学研究室の紹介

・教員：叶少瑜　　Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
・研究室　教員：7D206 号室　　学生：7D330 共同研究室
・ゼミ指導：全体ゼミ（修論生とともに）による進捗報告とともに，必要に応じて個人指導による指導も行います。
★研究内容：主にメディア心理学のアプローチから，対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響を究明するため，主として量的調査法と実験法を用います。



本研究室では，現在以下のような研究を進めていますが，これらに限定されずに，コミュニケーションとメディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお，本研究室は人を対象にする研究を行うため，性格が明るくて，フットワークが軽く，人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【スマホ依存と個人特性】
スマホ依存になりやすい人はどういう性格特性の持ち主なのか，スマホ依存になれば，より孤独を感じたり，抑うつを感じたりするのか。また，対面によるコミュニケーションとの関係によって，スマホ依存をどう捉えるべきかを検討しています。

【安心・信頼と異文化適応】
異文化コミュニケーションの視点から，内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感がいかにソーシャル・サポート・ネットワークの形成と被受容感，及び異文化適応に影響を及ぼすのか．また，様々なメディアがどのような影響を及ぼすのかを研究しています。

【社会的寛容性とメディア使用】
相手が自分と同じ意見や考えを持たないと交流しない，Twitter/Facebook 上の投稿に対して「いいね」を押さない！見たくない投稿をミュート・ブロックする！メディアの使用が多くの利便性をもたらす一方，我々の他者に対する社会的寛容性を低減させてしまう恐れがあります。どうすれば使えばよいかぜひ一緒に考えましょう！



2016 年度卒論生渋木さんが学会発表にて優秀賞受賞



2016 年度卒論生内田さんが学群長受賞

コンテンツ工学研究室

皆さん、こんにちは！佐藤研広報担当です。
ここでは佐藤研について、学生視点でご紹介いたします！！

基本情報

- 指導教員：佐藤哲司
- 場所：7D140（専門書、冷蔵庫、ミラーボール有り）
- 構成員：10名（学類生4名、博士前期課程3名、博士後期課程3名）

主な研究領域

Twitter

200億件を越える収集済みツイートデータを用いて様々な研究を展開しています。ユーザの属性や投稿傾向、フォロー/フォロワーネットワークの分析など、「Twitterを分析したい！」という方は佐藤研にどうぞ！

Q&Aサイト

自分が知りたい情報を知るためのQ&Aサイトですが、目的を達成するために沢山のQ&Aを見て回ることってありますよね。そこで佐藤研ではAppleコミュニティのQ&Aを対象に、質問の重要度を判定する研究を行っています。

調理レシピ

Cookpadより提供されたデータを使い、レシピに関する研究をしています。現在では、シズルワード（おいしさを表現する言葉）の多義性に着目した研究や、廃棄食材を活用したレシピ推薦に関する研究が行われています。レシピは奥が深いです。

その他

・引用に基づく影響力の強い論文の推定
・検索行動に基づく商品カテゴリの分類
・ネットワーク分析
・宿泊予約サイトのレビュー対応の品質向上
☆幅広いテーマで研究ができます！！

佐藤研での研究ライフ

ここでは佐藤研歴約8ヶ月の広報担当が、皆さんの気になる点を説明していきます！

・ゼミ
週1回開催しています。各自が1週間の進捗を報告し、先生やメンバーから意見や質問をもらいます。

・イベント
鍋会や夏合宿など季節ごとに何かしらのイベントがあります。他には研究室のメンバーで映画を見たり、筑波山に登ろうとしたことがあります。

・雰囲気
ある意味klisらしい人が集まっている気がします。飛び抜けてウェイではないが、さりとて暗い訳では無くおもしろい人が多いです。

・研究スケジュール
12月から各自で論文を読んでゼミで紹介します。その後、6月の着手発表会に向けて研究計画書を作り始め、発表後は各自研究をコツコツ進めていく流れです。

・ブラックラボなの？
ゼミ初期は18:20～23:30までゼミをしていた日もありました。しかし、ゼミ生が自分の研究について話せるようになってきたことで議論の密度が上がり、スムーズなゼミになりつつあります。自分の考えを論理的に説明できるか、準備不足でモニョモニョするか。佐藤研が黒く染まるかは皆さん次第です・・・。

お問い合わせは pub@ce.slis.tsukuba.ac.jp まで

宇陀則彦・松村敦研究室紹介（用語集）

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいる？」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。↔**晴れ男**

うだまつ研

宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

うっぴー＆コバルト

最近売れっ子の漫才コンビ。宇陀先生が即席でコバルト氏を巻き込んで漫才を始めたところ、あまりの即興のうまさにそのままコンビを組んでしまった。近未来図書館小劇場でのビブリオ漫才に出場予定。

うどん

松村先生の好物。つくばにはいいうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。東京授業の日に、こくわがたに寄るのが楽しみ。

エイリアン

共同研究室にある PC。長らく愛用されてきたが、2016 年 4 月、宇宙に帰った。

絵本

松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウェルカム！

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オープンラボ

毎年 10 月の研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが後輩に直接研究室の説明をする。3 年生だけでなく、2 年生や 1 年生も来てかまわない。

近未来シリーズ

学園祭で出展する企画名のこと。グランプリを 3 度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭で、この 1 週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。最近は、リア充ネタが多いことが問題となっている。

サイバーフィジカル

最近内閣府が提唱している科学技術政策のひとつ Society5.0 と同義。その遥か前からうだまつ研が目指してきたもの。ついに時代が我々に追いついてきた。

真の終電

つくば～柏の本当の終電のこと。松村先生が TX 通勤 7 年目の秋、パパ友の一言でそれまでの終電の概念が覆され「真の終電」が生まれた。真の終電が発動されるのは、真の修羅場だけ。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は 1 時間もかからない。松村研は 5 時間におよぶことがある。個別ゼミを行うことがある。

ＪＡＳＲＡＣ

宇陀研 OB の別名。え、そんなところに就職したの、と声にならない声で迎えられた。その後、自然にこう呼ばれるようになった。

第二次常川内閣

うだまつ研のゼミ頭として最も安定した時代のこと。総理大臣の常川まおまおさんを中心に、通信大臣、広報大臣、環境大臣、合宿特命大臣、近未来大臣など、一丸となってゼミ運営にあたった。

知識情報空間

宇陀研のメインテーマの一つ。知識創造を行う活動としての「場」に関わることなら何でもよい。知識について考えたい人はウェルカム！

Ｄ５先輩

とある宇陀研 M1 の呼び名。D5 は博士課程 5 年目のことを指すが、4 年生のとき、メーリングリストで B と D を間違え、D4 と書いてしまい、修士の先輩からも「D4 先輩」と呼ばれるようになった。その後、順調に進級し、D5 先輩になった。

手書きスライド

某宇陀研 B4 が文字・絵も含めて全てを手書きで作った PowerPoint スライド。研究室を爆笑の渦に巻き込んだ後、着手発表会では吉田先生の絶賛を浴びたという伝説のスライドである。その後手書きとフォントのハイブリッドに進化した。

なおちゃんＢＯＴ @naotyan_bot

なおちゃんの発言をまとめた bot。常に爆笑を巻き起こす彼女の発言を残しておこうという動きから実際に作成された。例「やせたーい（とんかつを食べながら）」。日々爆笑発言が繰り出されるため、登録が追いつかない。

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと卒論/修論に関わらない研究活動が目的。これまで、高松、函館、津、青森、熊本、広島、金沢、倉敷を訪れ、今年は米沢に向かう。現地集合、ホテルは各自確保で一度も「合宿」であったことはない。

７Ｄ２４０

我らが共同研究室。長谷川研とも共同。ソファー、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻ってきて夜を明かす人が続出する。7D240 にあるプリンタは複数の先生で共用しているので、出力を取りにくるとき、怪訝な目で見て去っていく。

晴れ男

気温 34 度まで上げるという異常体質を持つゼミ生ＴＴのこと。→**ＴＴ ↔雨男**

びおるんワールド

某松村研 B4 が繰り広げる夢の世界。本人は日常的に夢の世界を行き来しているようで、無限に広がる妄想の世界に誰もがすぐに引き込まれる。卒論着手発表で、聴衆をおはなしの世界へと連れて行った実績を持つ。

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4 人に L サイズ 1 枚で計算するとちょうどよい。

プチ合宿

夏休みの 1 週間、教室を借りて（大抵 7A208）、朝から晩まで集中して卒研等を行う会。みんなで出前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240 は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

ＴＴ

ある時からイニシャルで呼ばれるようになった某院生。松村先生の娘さんからもＴＴの愛称で親しまれている。現在外国逃亡中。→**晴れ男**

洸雄

「みつお」と呼ばれるゼミ生の名前。正しく読まれたことはこれまで一度もない。ご両親も「みつお」と認識しているらしい。

みっしー

年齢不詳、着物の人。うだまつ研の要。にも関わらず体の要を痛めている。外部発表をすると８割方教授と思われるオーラを出す。

もいマスター

moi!kka をこよなく愛するケンシロウの恋人と同名の M2 のこと。moi!kka 内部に潜入し、その全てを知り尽くしている。口癖「もい～」

阪口研究室とは？
～快適な情報共有・伝達基盤を求めて～

どんなことをやるのか？

- 情報共有・伝達基盤技術を対象に
  - 情報の共有や伝達を快適に行う（大目標）
  - そのために様々なアプリケーションシステムが構築されている
  - 「快適」には「安全」や「安心」も含まれる
- 目的: その構築を支える技術の開発
  - アプリケーション構築で使うライブラリやミドルウェアのデザインと実装・検証
  - 例題としての構築そのものも対象にする
- 今使っているシステムは快適ですか？
  - そうでないなら改善を目指そう！



グレーの部分が本来の目標

現在の主だったテーマ類(他研究室と共同のものもあり)
- Linked (Open) Dataの開発・接続・検索 (発見) の支援☆
- マイクロタスク型Crowdsourcingプラットフォームの開発
  Crowd4U/FusionCOMPプロジェクトの一環

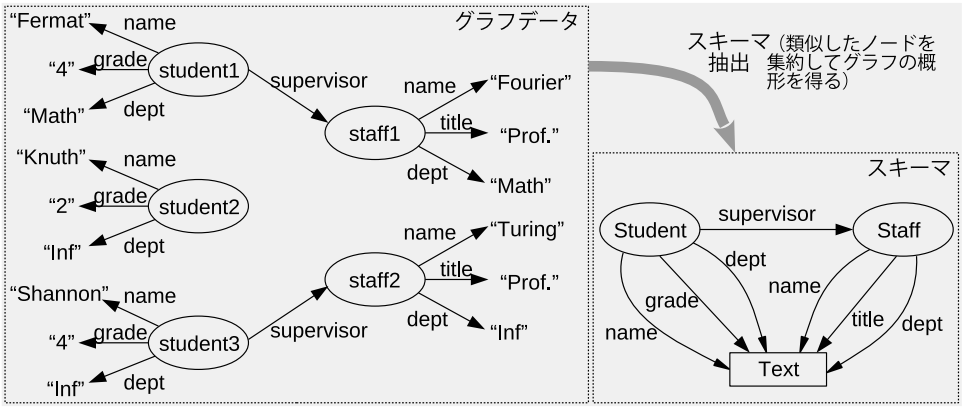
(これまでのテーマ例は下記Webページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！
電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑ : -)

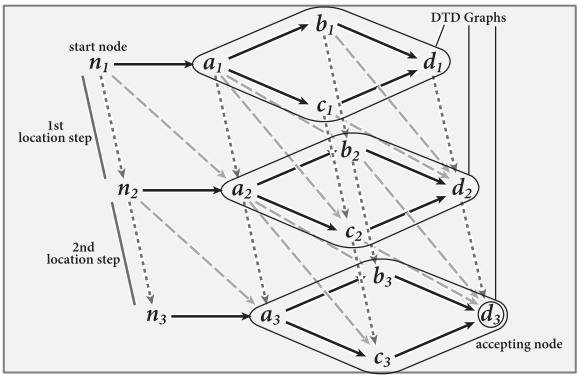
氏名: 阪口　哲男
Webページ: https://www.sakalab.org/
(3年生向けページはここからリンクします)
Eメール: saka あっと slis.tsukuba.ac.jp
研究室: 7D312 (普段は下記の共同研究室にいます)
共同研究室: 学系共同研究スタジオ3 (情報メディアユニオン棟3階)

鈴木伸崇研究室

当研究室は，グラフデータや XML/HTML など，主に「構造を内包するデータ」について研究を行っています．ご参考までに，研究テーマの一部を挙げます．老若男女を問わず，意欲のある方のご参加を歓迎いたします．



グラフデータ 近年，大規模なグラフデータが急速に増加しています．グラフデータを検索するための手法はいくつも提案されていますが，大規模なグラフデータは主記憶に収まりきらないため，従来の手法では効率のよい処理が困難です．当研究室では、外部記憶アルゴリズムの技術を応用して，大規模グラフデータにおける効率の良い検索アルゴリズム，スキーマ抽出（上図）や妥当性検証を行うアルゴリズムなどについて研究しています．



XML 処理 XML の標準的な問合せ言語 XPath を対象に，スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しました．構造的に正しい XPath 式は通常複数存在するので，グラフ理論を応用（左図）し，ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています．このほか，MathML 式の分類・変換，DTD を用いた CSS の妥当性検証，XML スキーマ進化などについて研究を行っています．

電子書籍(EPUB) 自作の EPUB ファイルには表紙が与えられていないものが数多くあります．しかし，書籍の表紙は選書の重要な手がかりとなるため，書籍の内容に合った表紙を自動的に生成できれば有用であると考えられます．当研究室では，EPUB ファイルのテキストデータを解析して，その印象に合った色およびフォントの推薦や，イラストを推薦するシステムを開発しています．

その他 上記のほか，NIMS（国立研究開発法人物質・材料研究機構)と共同でマテリアルインフォマティクスに関する研究（結晶の X 線/電子線回折画像の解析）なども行っています．ご質問などございましたら，鈴木(nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp)まで遠慮なくお寄せください．

学生数：院生６名＋学類生５名

ゼミの頻度：週１回＋α

研究室：7D204（教員），ユニオン 3F 学系共同研究スタジオ３（学生）

研究室 Web ページ：http://nslab2.slis.tsukuba.ac.jp/

コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp





コミュニケーション理解研究室では，人間の言語理解の過程を明らかにしつつ，
人と人あるいはコミュニティとをつなぐコミュニケーションの支援や，
ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援に
ついて研究を進めています。

自分の興味を見つける努力をしてください。
企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。
（NTT，楽天，富士ゼロックス，きざしカンパニー，つくば市，水戸市）

- 楽天との共同研究（重複レシピの検出）が 2017 年 8 月 20 日付のつくばサイエンスニュース等に掲載
- 水戸市との共同研究（SNS 活用、学生が伝授）が 2017 年 10 月 2 日付の茨城新聞に掲載
- 水戸市との共同研究（Twitter で市民の声把握）が 2016 年 8 月 6 日付の日本経済新聞に掲載
- つくば市との共同研究（Wikipedia Town 筑波山）が 2016 年 4 月 25 日付の常陽新聞に掲載

教員室：7D-213，学生研究室：7D-140
研究室 Web サイト：http://cu.slis.tsukuba.ac.jp

2010 年 12 月～
教員：1 名
学生：2 名
OB・OG：24 名





ソーシャル情報アクセス

ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して，クリエータを検索したり
既存のサービスとは異なるランキング手法を提供

音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索

（人工知能学会 論文誌採録）

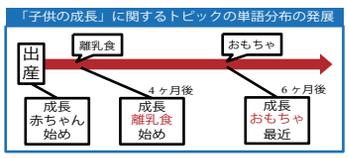


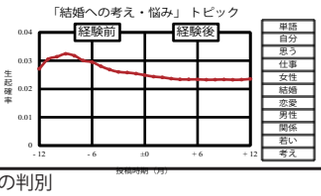
© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net



ライフイベントに依存したトピック推移の分析

（情報処理学会論文誌 TOD 採録，ACM SIGIR 2017 採録，DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞，平成 29 年度 茗渓会賞，平成 29 年度 図書館情報メディア研究科長表彰）





調理手順類似度と料理画像類似度に着目した重複レシピ投稿者の判別（CEA 2017 採録）
投稿型レシピサイトを横断した重複レシピの判別（DEIM 2016 優秀インタラクティブ賞）

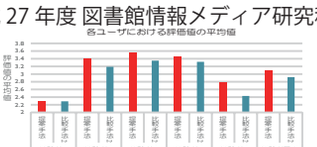
人気レシピの内容的特徴に着目した実用的レシピの判別
（CEA 2014 採録，Best Paper Award）
閲覧者による印象を考慮したイラスト投稿者の検索
（ACM SIGIR 2013 採録）

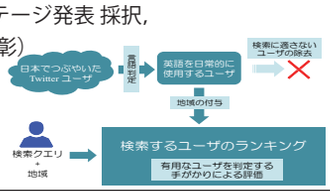
スマートソーシャルシティ

ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり，オープンデータを活用することで
行政サービスの活性化を支援

外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦

（観光情報学会誌 採録，WI2 研究会 第 4 回ステージ発表 採択，
平成 27 年度 図書館情報メディア研究科長表彰）





Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定

（ICADL 2016 採録，平成 27 年度 情報学群長表彰）

ユーザの投稿場所に着目



ユーザが特定の時間帯に投稿する場所は属性ごとに異なる

市民のツイートを行政課題ごとに分類するための関連語の抽出（平成 29 年度 総代・情報学群長表彰）
市民のツイートを利用した分散表現に基づく都市別特徴の可視化（平成 29 年度 情報学群長表彰）
地域ユーザに着目した口コミツイート収集手法の提案（DEIM2016 学生プレゼンテーション賞）
パブリックコメント投稿者を支援するための行政文書の分割（平成 26 年度 情報学群長表彰）

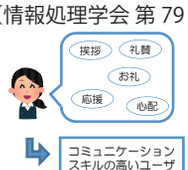
半教師ありトピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定
（情報処理学会論文誌 TOD 採録，IFAT ヤングリサーチャー優秀賞，
DBS 研究会学生奨励賞，平成 25 年度図書館情報メディア研究科長表彰）

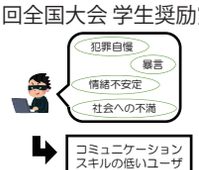
ソーシャルコミュニケーション支援

ソーシャルメディアにおける，より使いやすいコミュニケーションのあり方の提案
新たなコミュニケーションサービスの提供

投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析

（情報処理学会 第 79 回全国大会 学生奨励賞）



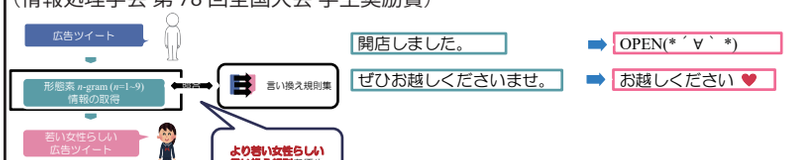




コミュニケーションスキルの低いユーザは
特定の時間帯 (深夜帯) に集中して投稿

宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言い換え

（情報処理学会 第 78 回全国大会 学生奨励賞）



感情推定に基づく顔文字推薦システムの構築
（言語処理学会論文誌 採録，情報処理学会 山下記念研究賞，
日本語学論説資料 掲載）

読者の感性を発信・共有するためのソーシャル付箋
（電子情報通信学会論文誌 採録，平成 24 年度 情報学群長表彰）
Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出
（平成 25 年度 情報学群長表彰）

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/

- 教員: 高久 雅生（たかく まさお）
- 研究室（居室）　教員： 7D208室
  学生： 7D221共同研究室
- 学生数（2018年度）: 12名（学類4年次: 4名，修士: 5名，博士: 3名）
- ゼミ指導：研究室全体ゼミによる進捗報告（隔週）と，個人ごとの指導（毎週）を行い，研究を進めます。

✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の**真ん中**を扱う研究室です。

✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に，システムの構築や新しいアイデア，実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。

✓ こんなひとにお奨め

- ◘ 情報システムの力を借りて課題を解決してみたい!
- ◘ 情報検索や探索支援の際の利用者の行動に興味がある!
- ◘ 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい!

情報探索行動

情報探索行動とは，ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し，それらにかかわる要因をモデル化し，探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では，ウェブ環境下での記録機器，ソフトウェア等の発達により，より精緻に情報探索の過程を計測し，情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では，探索過程の記録や，探索記録からの知識発見，探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発，特に，探索タスクや情報ニーズが探索行動にどのように影響しているか解明することを目指して研究しています。

電子図書館

電子図書館は，既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完，強化し，新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定，情報推薦，可視化，利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり，現場のニーズに基づいてサービスの分析や精緻化を行う役割が求められています。

高久研究室では特に，検索機能の向上，Web APIマッシュアップによる新しい機能の提案，デジタルアーカイブズの活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは，対象文書群を適切に索引付けし，利用者の情報要求に基づき，ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析，文書構造の同定，文書の索引付け，文書ランキング，検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ，ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では，対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や，新しい検索手法，検索インタフェース，検索評価手法の開発を目指しています。



過去の卒業論文テーマの例

- 主題情報に基づく文献探索支援の研究 ―検索結果の可視化と主題ファセットを用いた手法―
- OPAC利用ログを用いた文献検索システムの構築
- うろ覚えマンガの探索支援システムの構築
- ボランティアマッチングのための体験談検索システムの構築

連絡先: 高久雅生
- Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- Twitter: @tmasao

手塚研究室

手塚研究室ではデータから有益なパターンを発見し、構造化された知識を得るためのプログラムの開発を行っています。センサ技術や通信ネットワークの発展によって膨大な量の電子的なデータが蓄積されている現在、これらの手法には幅広い応用があります。具体的な研究対象として、特に画像と神経細胞の活動データ（時系列データ）を主に扱っています。

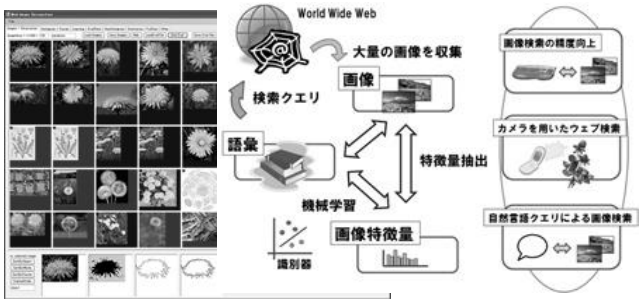
研究室では毎週、輪講やゼミを行っています。輪講では基礎的な技術に関するテキストを用いて学生が順に発表し、理解を深めています。ゼミでは各自の研究の進捗を発表して ディスカッションを行い、問題の解決に向けての検討を行っています。夏休みの合宿やスポーツイベント、鍋などを通して研究室内での親睦を深めるようにもしています。データを解析する力、問題について深く考え、解決を模索する力は実社会に出ても必ず役に立つと思います。

研究室Webページ：https://tarotez.github.io/



画像処理・時系列データ処理

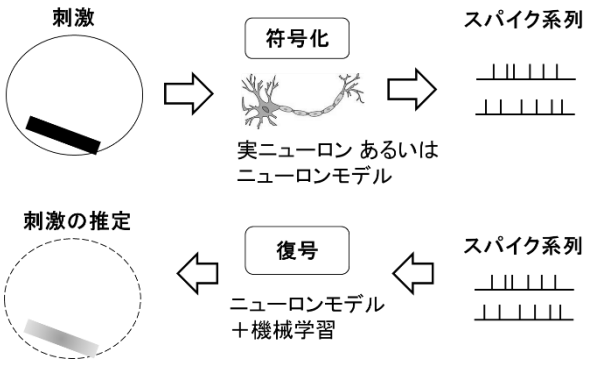
深層学習（deep learning）や辞書学習（dictionary learning）を用いて画像や時系列データの処理を行う研究に取り組んでいます。教育データの解析、テニスの戦略分析、ファッションの推薦など、多様なデータに対して機械学習の手法を用いてタスクを達成する研究を行っています。





神経活動データの解析

神経細胞間ではほとんどの情報が活動電位（スパイク）によって伝えられるとされており、脳における情報表現の理解においてスパイク系列の解析は欠かせません。スパイク系列の間に類似度や距離を定義する研究は以前から行われていますが、近年ではより幅広い用途に使用できる正定値カーネルをスパイク系列上で定義する手法が提案されています。手塚研究室ではこれまで研究されてきた単一ユニットのスパイク系列に対するカーネルではなく、多ユニットのスパイク系列（多チャネルスパイク系列）上のカーネルについて研究を行っています。



時井研究室

情報の可視化をテーマに研究を行っています。

知識の集約、伝達をテーマに

2016,2017 年度

AR+ 絵画鑑賞,知識集約, 身近な科学

Kinect + 浮世絵、オノマトペ、調理＋論理的思考

年間スケジュール

10 月	オープンラボ
12-2 月	基礎勉強、研究調査、 グループワーク:ミニシステム開発
3 月	研究会等で研究調査
4 月～	システム開発、実験、論文執筆
3 月	学会発表

どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。
などなど、デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、
テーマを具体化していきます。

卒業研究で得た知識、技術を使って、展示などを行うこともあります。
現在(2017.08) コンテンツ制作中です。
みなでアイディア出しをして、スケジューリングして、制作スタート。



若林研究室

研究室: 情報メディアユニオン4階 客員研究室
指導教員: 若林啓

研究テーマ

私たちの身の回りには、大量の情報が蓄積されています。近年、この情報をビッグデータとして分析を行い、データに現れる特徴を解明したり、未知のデータを予測したりすることへの利用が期待されています。
若林研究室では、大量のデータから本質的な知識を抽出する機械学習手法と、これをベースにした人工知能の研究を行っています。子どもは周囲の人が話す言葉を手がかりに自力でことばを学習していきますが、この過程では統計学習が行われていると言われています。統計的機械学習手法を発展させ、文章の意味をより深いレベルで認識させることで、高度な知識抽出や対話システムなどの実現を目指すことが本研究室のテーマです。

研究をすすめる上で望ましい条件

1. 実装力がある、あるいは実装力を身に付けたいという熱意がある
2. 必要なら数式にも立ち向かえる

研究室のみどころ

1. 自由な雰囲気で作業ができる
2. 最新の機械学習手法を学べる
3. 研究設備が充実している（個人PC（MacBook）貸し出し，計算用サーバ3台）
4. SlackやGitHubを活用した環境







主な活動内容

1. 週1回の個別ゼミ
2. 手塚研究室との合同ゼミ・合宿
3. 自主的な輪講（深層学習など）
4. 新メンバー歓迎会

メンバー構成

6名 （M2: 2名 M1: 1名 B4: 3名）

若林研究室ホームページ: https://wkblab.github.io

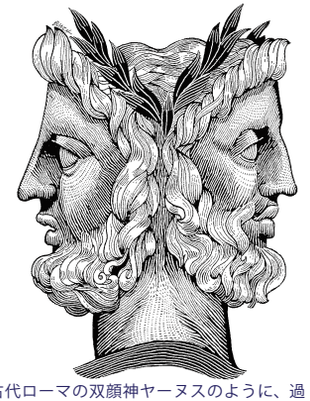
アーカイブズ学研究室
Archival Science Laboratory

指導教官プロフィール

バールィシェフ、エドワルド（Eduard BARYSHEV）
7D415 研究室、内線　1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野（指導可能な分野）：

＊アーカイブズ学理論全般、
＊各国の文書館やアーキビスト養成、
＊国家機関（省庁）内の記録管理、
＊保存記録の管理・利用に関わる諸問題、
＊記録媒体と情報処理、
＊保存資料（史料）と歴史学



古代ローマの双顔神ヤーヌスのように、過去と未来を同時に見詰めているアーカイブズ学

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録資料の総称、②上記の記録資料が保存されている機関および施設

⇒　社会的な進化とともに変容し、多様化してしまったアーカイブズは、今日、「国家や国民の生活から生まれた過去の諸データ」として再定義されつつあります。



保存記録（アーカイブズ）の管理および利用の様子（イギリス国立公文書館、ロンドン）

今日の社会が抱えている諸課題と対応策



イギリス国立公文書館の前

今日の情報時代において、アーカイブズは再び社会の注目を浴びています。公文書やその他の記録資料の電子化、情報技術の普及等がアーカイブズの「通俗化」を促成し、社会科学の在り方を変えていると同時に、様々な問題を引き起こしています。

特に、情報資源の多様化およびその断片化は、記録資料の利用を困難にしているため、情報の分類整理やその管理事業が次第に重要性を増しています。国際的・地域的にみれば、アーカイブズの管理状態には、電子化の度合い、アクセス基準などに顕著に表れているような格差があり、それも情報資源の効率的な使用を妨げています。

この状況下において、日本の国内や国外における記録管理・保存に関する歴史と現状を学ぶことにより、「国民の記憶」としても位置づけられる記録管理の水準向上を目指すことは大きな社会的な意義が認められる。

研究・指導方式

● 国際化の時代が求められる幅広い知識を目指しながら、比較社会学的な方法を頼りにして、学生の関心・達成目標に合った個別的な研究の指導を行っています。

● 隔週、ゼミ方式の授業（2 時間程度）を行うとともに、個別で相談できる時間を設けます。

人類が今まで作り出した諸記録の遺産に関心をもち、
過去、現在および未来における「文書」の在り方について学び、
国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、
研究室で待っています。
Dear students, I am waiting for your coming!

融合知能デザイン研究室（森嶋・渡辺・松原研究室）



研究室について

2017 年に立ち上げた Human-in-the-loop Big Data & AI の研究を進める新しい研究室です．2018 年から新たに渡辺知恵美先生がメンバーに加わりました．

防災，健康，教育，環境，飢餓，貧困・・・人類が直面する困難な問題を解決するために，人々と計算機の知を結集して立ち向かわなければなりません．本研究室では，人類が史上初めて手に入れた，数十億規模の人々と AI のネットワークを活用し，これらの協力により創出される「融合知能」をデザインする科学技術を確立します．研究のための研究を行うのではなく，世界的な研究成果を出しながら，成果を活用したプラットフォームを自ら開発し，様々な領域の専門家と協力して，これまで諦めていた問題の解決とよりよい社会を実現することを目指します．

研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

Human-in-the-loop(ヒューマンインザループ) とは機械が得意な作業と人間が得意な作業を組み合わせて問題を解決する考え方です．今後の社会をデザインする重要なキーワードとして注目を集めています．本研究室では，ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています．

自然災害発生後の被害状況を即座に把握する
世界遺産・被災地の記録を未来に残す
障害者と健常者の共生社会を作る
みんなの力で真実を発見する
AI と群衆が教え学び合う
群衆の力を合わせて AI に勝つ
市民の意見を集約して市政に貢献する
漫画がより楽しめるようコンテンツを活用する



クラウドソーシング・ヒューマンコンピュテーション
ソフトウェア工学・プログラミング言語設計
ビッグデータ・データサイエンス
データベース
機械学習
人工知能
教育工学
行動心理学
セキュリティ・暗号化 DB
プライバシ・個人情報保護

クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」と「フィールド実践」を繰り返しながら研究することが特長です．研究テーマはプロジェクトを引き継ぐ，新たに与えられる，自ら提案するなど自分に合った方法で決めることができます．

主な活動

ゼミ週 4 時間（研究 , 文献調査 , 開発）, 個別ミーティング週 1 回 , 勉強会随時 , 合宿 , 国内・海外学会発表

過去の主な進路

大学院進学（図情 , シス情）修士修了後の就職先：Amazon Web Service Japan, ウェザーニューズ , NTT 研究所 , NTT データ , NTT ドコモ , キヤノン , コーエーテクモゲームス , 高校教員 (情報科), 新日鉄住金 , ソフトバンク , 日立製作所 , 富士通 , みずほ総研 , Yahoo! JAPAN, 楽天 , ワークスアプリケーションズ

詳細情報

説明会・オープンラボは 10 月上旬を予定しています．
詳しい日程は研究室 Web サイトなどに掲載します．募集人数：知識学類 2 名
面談問い合わせ先 : fusioncomp-lab@ml.cc.tsukuba.ac.jp (森嶋・渡辺・松原)

https://fusioncomplab.org

FusionCompLab (Morishima & Watanabe & Matsubara Lab.)



HIT LAB

逸村裕 研究室

Episode XIV

Contact:
hits@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野

大学図書館、学術情報流通、情報探索行動、オープンアクセスを研究テーマにしています

所属ゼミ生

B4が4人、M1が2人、M2が1人、Dが4人、社会人院生が多数います。教員、先輩からの論文作成やプレゼンテーションのアドバイスを受けられます

ゼミについて

週1回、学類生と院生合同でゼミを行います。研究発表会や大学院入試前はゼミ頻度が増えます。春と夏に他大学合同ゼミ合宿を行います

卒論テーマ

米国大学図書館における日本研究を担当するライブラリアンの現状
教養教育における大学図書館の利用
アクティブラーニング実施空間としての図書館
大学図書館ブランディングのモデル構築

研究環境

逸村研究室は共同研究室7D340に所在しています。ゼミ生に対してそれぞれ席とPC(Win xor Mac)があります。プリンターやスキャナー、おやつも完備

年間スケジュール(一例)

2018年10月：オープンラボ
2018年12月：研究室仮配属
2019年1~2月：研究テーマの構想
2019年3月：春ゼミ合宿@初島
2019年4~5月：着手発表の準備
2019年6月：着手発表会
2019年7~8月：中間発表の準備
2019年9月：夏ゼミ合宿@蓼科
2019年10~11月：卒業論文執筆
2020年12月：卒業論文提出・最終発表の準備
2010年1月：最終発表会
2020年3月：春ゼミ合宿・卒業式

学校図書館に関する研究室：学類から博士後期課程まで一貫した研究体制

平久江研究室（研究室 404）hirakue@slis.tsukuba.ac.jp

研究の概要

本研究室の研究テーマである学校図書館は，身近な存在であっても，あまり研究対象とは認識されない，そんな研究領域です。図書館としてみると，施設・設備の規模から，その研究領域の間口は決して広く感じられないと思いますが，これを学習環境や教育機関として捉え直したしたとき，多くの学問分野と繋がり様々な研究アプローチが見えてきます。そうした学際的な学問領域が学校図書館の研究領域です。

例えば，関連する研究領域としては，教育学，情報学，経営学，社会学等が挙げられます。

主な研究のアプローチと特徴

一貫して学校図書館の研究を行う国内唯一の研究室で，本学類の中でも大変ユニークな研究領域

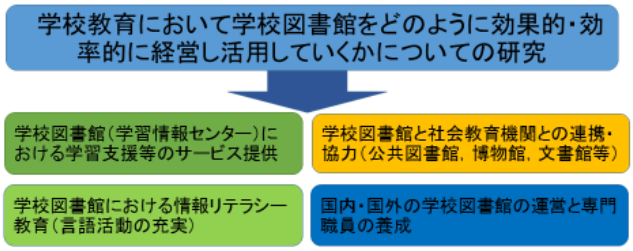




主な研究領域

- 図書館情報学と教育学等の学際的な研究領域
  ⇒ 学校図書館に関する研究

KW：利用指導，管理運営，外国研究，連携協力等



学校図書館ミニ知識

- 1990年代後半から，学校図書館の現代化が進められてきました。1997年に学校図書館法が改正され，司書教諭の配置が進められました。そして，2014年に学校図書館法が改正され，学校司書が法制化されました。また次期の学習指導要領改正によりアクティブラーニングへの支援が導入されました。
- 学校図書館の研究は今後重要性がさらに高まるものと考えられます。



共同研究室7A430室でのゼミ風景

卒業研究の進め方とゼミ生数

[今年度の予定]

- 12月～3月上旬

基礎的文献を読んだり，レジメの作成法，発表方法，研究テーマの絞り込みをします。

・はじめは3年生だけで実施し，後半は4年生や院生と一緒にゼミを行います。

- 4月頃～

卒業研究の本格的に開始し，研究テーマを決定し着手します。

[受入予定人数] 3名程度

[ゼミ生数]

- 学類生 3名
- 博士前期課程学生 4名
- 博士後期課程学生 10名

[受け入れ方法]

- 事前にメールで連絡し，所定の面談用の用紙を提出し面談をします。

近年の卒業研究と主な進路

[卒業研究のテーマ]

・小学校図書館におけるサインシステムの現状と課題
・学校図書館におけるキャリア教育支援
・学校図書館における参加体験を通した学びへの支援：読書会の活動を通して
・公共図書館の郷土資料の調べ学習への活用
・学校司書の研修制度の在り方
・中学校における学校図書館の生徒向け選書の現状と課題
・学校図書館による高校「倫理」への支援
・公共図書館の郷土資料の調べ学習への活用

[学類ゼミ生の主な進路]

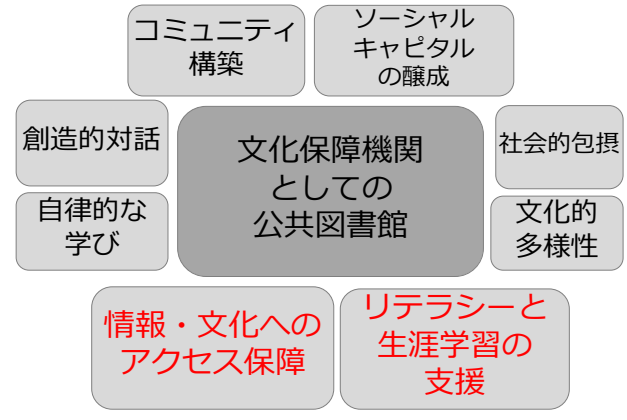
・筑波大学博士前期課程
・栃木県庁(行政職)
・大阪府立図書館（司書職）
・ゆうちょ銀行（総合職）
・九州大学図書館（司書）
・航空集配サービス株式会社
・セザックス株式会社
・NTT-ATコミュニケーションズ株式会社
・茨城県中学校教諭
・埼玉県立図書館
・コンピュートロン株式会社

研究室紹介　吉田右子（研究室116）
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



BIBLIOTEKET Rentemestervej, København Danmark

図書館研究の射程



研究領域



研究テーマと研究方法

（１）生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究
（フィールドワークを中心とする研究です）

（2）公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究
（文献を使った地道な研究です）


Hovedbiblioteket, Aarhus Danmark

研究室配属から卒研提出まで

12月	研究方法について学びます
１月	研究テーマについていろいろな角度から検討します
2月	先行研究の調査【ミニ発表会】
3月	研究テーマの確定【春休み・ゼミはお休み】
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月	本調査
8月	本調査【夏休み・ゼミはお休み】
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

卒業研究テーマと進路

- アメリカ・カナダの公共図書館におけるセクシュアルマイノリティに対するサービス
- 北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス
- オーストラリアにおける先住民族に対する公共図書館サービス
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- インドネシアにおけるメディア環境の変化を背景とした読書の実態

【主な就職先】
- 横浜市立図書館・福島県立図書館・成田市立図書館・新潟市図書館・神戸市立図書館
- 名古屋大学・長崎大学・東北大学・東京芸術大学
- 東京消防庁・下仁田町森林組合・小金井市



Hovedbiblioteket, Drammen Norge

綿抜豊昭研究室

研究分野について

・日本の文化に関することで、時期は明治ぐらいまで。

・今年度は、三人のゼミ生が「観光記念スタンプ」「震災短歌」「明治期俳書」を研究対象としています。

学生の人数

・毎年度、三人を上限としてます。

年間スケジュール，卒業論文執筆の流れ等

・ゼミ生一人ひとり個別に対応してます。

ゼミの頻度

・だいたい週に一回です。

・飲食に留意しなければならないので、合宿、飲み会等、団体ゼミ活動はしません。

その他

・中央図書館の秋の特別展示を行います。是非、御覧ください。

情報法研究室

1 研究室の概要

石井研究室では、情報に関わる様々な法的問題を研究しています。日本には「情報法」という法律はありませんが、個人情報保護法や著作権法のような、耳にすることの多い法律から、電気通信事業法、景品表示法、プロバイダ責任制限法、特定商取引法、リベンジポルノ禁止法のような、あまり馴染みのない法律まで、民事法・刑事法・行政法の多岐にわたる法律が情報法のカテゴリに含まれます。数年前には、マイナンバー法が話題になりましたが、この法律も情報法の 1 つです。また、法学研究を行う上では、実務を動かす判例の動向を研究することが非常に重要です。

情報技術が高度に発展する中、情報に関わる法的問題も様々な場面で生じています。法学は地味な研究分野ですが、石井研究室では、皆さんに好きなテーマを選んで頂き、自立心を持って研究に取り組んでもらっています。

2　活動

1）指導体制等

石井研究室では、学期中は 1 週間に 1 度のゼミを行っていますが、指導学生の就職活動の都合などに応じて、個別指導も随時行っています。卒研発表会の後は飲み会を行う年もあります。法律系のゼミですので、公務員や教員志望の学生が比較的多いと思われがちですが、民間企業に就職する学生が多数派です。

卒研生の皆さんには、例年、3 月頃までに研究テーマを確定し、着手発表までに研究背景、目的、全体構成を整理し、中間発表までにできる限り執筆を進め、11 月頃から考察の章を検討してもらっています。法律系の研究は執筆分量が多くなりがちですので、遅くとも 12 月からは考察の章を執筆できるように進める必要があります。専門家の方に意見を聞く場合もありますが、基本的には文献調査で研究を進めていきます。ゼミの人数は、少ない年で 1 名、多い年で 5 名が在籍しており、平均すると 3 名程度です。ゼミに出席できない場合は、メールでも随時指導を行っています。

2）居室

・石井：7D509

・共同研究室：7D540(2017 年 9 月 1 日現在)

3）卒業研究テーマ(平成 26 年度以降)

【平成 28 年度】

・犯罪報道の在り方に関する考察

【平成 27 年度】

・サイバー犯罪に関する刑事法的考察
・インターネットにおける実名制導入の是非
・インターネットにおける事業者情報の名誉棄損に関する考察
【平成 26 年度】
・図書資料の規制と図書館の自由―プライバシー権侵害を中心に－
・日本における文化的活動の保護と制限をめぐる考察－文字・活字文化を中心に－
・インターネット上の個人情報の削除請求権パブリシティ権の法的性質に関する考察

3　連絡先

kaoriish@slis.tsukuba.ac.jp

小泉研究室

図書館あるいは類縁機関が知識・情報やそのサービスをどのように市民に対して提供するのか，
またそれらを通し地域社会における様々な課題をどのように解決していくのかについて，
(1)政府（公共政策），(2)図書館（経営），(3)市民（図書館の利用者）の3つのレベルを切り口に，
マネジメントあるいはガバナンスという観点から研究を進めていきたいと考えています。
卒業生の研究テーマは以下の通りです。

2016年度
『日本の公共図書館における委託の論点整理』，『日本におけるマイクロライブラリーの実態調査』
『大学図書館における障害者サービスと合理的配慮』，『日本の公立図書館における公共圏モデルの構築』
『図書館を対象としたマーケティング研究の変遷と特徴』
2017年度
『公共図書館における貸出利用の実態ー江東区立図書館の貸出データの分析ー』
『日本の公共図書館におけるヤングアダルトを対象としたサービスの変遷』
『カルチュア・コンビニエンス・クラブによる図書館経営の実態調査』
『公共図書館における課題解決型サービスの発展』，『日本の公立図書館における児童エリアの変遷』

キーワードは「図書館」ですが，
多種多様なテーマで研究を行っています。
興味関心がある場合は
ぜひ一度面談にいらしてください。



学生の人数

博士後期課程：5人（うち社会人3人）
博士前期課程：4人

ゼミ

週1回，2，3時間程度
議論が活発で刺激になります。研究や発表の課題を指摘し合うことで論理的な思考が鍛えられます。

共同研究室の環境

パソコン，ソファ，冷蔵庫，電子レンジ，電気ポットなど… 気になる方は7D320まで

年間スケジュール

12~3月：小泉研内でグループを組んで共同研究，卒業研究のテーマを考える
4月：卒業研究のテーマを決定
9月頃：ゼミ合宿（他の研究室との合同開催）
12月：卒業論文提出

卒業生の進路

公務員（司書），大学院進学，公務員（行政），大学職員

お待ちしています！

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、図書館、言葉、読み（リテラシー）に関する社会的文化的な問題を考えることに興味がある学生がよく集まっています。ゼミ生の関心は、例えば、図書館でも話題になる若者読書文化における文章の特徴の分析、アニメ作品を通じた映像メディアと言葉メディアの相違の研究、児童文庫レーベルに見る変化しつつある児童文学作品の現在、アニメ映画の新聞メディアを通じたパブリシティの分析、など多様です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるんですか？

研究方法は扱うテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めます。質的・量的分析のどちらも考えられます。テクストにおける語の出現頻度を分析したり、インタビュー調査をしたりすることもあります。そのさい、事実やデータに基づいた客観的な研究とは何かを考えながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究では、そうならないように注意しなくてはなりません。研究方法が多様であるせいか、研究室には高校のときの文系、理系を問わず、どちらの学生もこれまで所属しています。

研究指導は研究室で、週１回のペースで行います。全員で集まって研究報告をしたり、ディベートをしたり、また、個人指導をすることもあります。研究テーマを相談しながら決めたり、みんなで研究方法を考えたり、発表会前にはプレゼンの練習をしたりもして、卒業論文を執筆します。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をしたことがあり、その経験からドイツに出張することも何度かありました。ドイツの図書館は日本とはかなり異なっています。そのことに興味がある学生もいましたら相談して下さい。



ゼミ生の様子（着手発表会後）

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。みんなでゼミ旅行（軽井沢、湯西川温泉など）に行き、さらにバーベキューや花見をする年もあります。今年のゼミ生は、春休みには熱海温泉に行きました。ところで《就職先》ですが、国立大学法人等職員（図書・事務）、独立行政法人の職員、都道府県・市町村の公務員（図書館を含む）の他、書籍販売・出版・図書館コンサルタント関係の企業、映像・音楽エンタテインメントの商社、医療研究の公益財団法人、SE など、先輩は全国の幅広い地域で仕事しています。研究室を訪ねてくれる先輩もいるので話を聞くことができます。ちなみに、現在の４年生は４名（写真）です。

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、一緒に良いテーマに洗練させていきます。興味のあることが良いです。話を聞いてくれる先輩もいます。あまり難しく考えず、研究室訪問をして下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば、面談のための時間をお伝えします。

◆ゼミ生による研究室紹介
―気兼ねなく発言できる雰囲気―

私たちの研究室は週に１回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。４年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週１でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりのないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと言っても過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。３年生の３月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がって実現したものです。６月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生月にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思います。

（研究室ＯＧ　武田未来さん）

研究室紹介号

MILK
知識情報・図書館学類誌

Extra
October,2018

Credit

知識情報・図書館学類誌 MILK 研究室紹介号
●発行者　歳森敦（知識情報・図書館学類長）
●発行日　2018 年 10 月 1 日
●編集部　栁田雄輝 中村紗彩 西岡志織
●協力　　知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方